

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
1	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、京都文化の新たな創造・発展と次世代の担い手を育てる取り組みを進めます。				
	計画区分	中期計画	京都力の発揮	文化創造	
達成手段 (数値目標)	①	琳派をテーマに年間を通じて切れ目なく京都文化の魅力を内外に発信し、ものづくり・伝統産業等との幅広い連携のもと「大琳派祭」を開催します。 ＜オール京都の琳派関連事業数 累計400件(26実績 78件)＞			・オール京都の琳派関連事業数 累計412件(2678件、27334件) (達成率103%) ・「PANTHEON～神々の饗宴～」を実施(7～10月) ・アート作品展示(雷神(5月～)、フローラ(7月～)、風神の塔(8月～)、New Generation Plant(9月～)) ・ライトアップ(アート作品、観覧温室、クスノキ並木)、ひかりの実(LED内蔵果実袋)による樹木装飾(9月～10月) ・「植物園 de RIMPA 2015」お茶といけばなの祭典 参加者数約10,000人 ・京都国際映画祭とのタイアッププロモーション(10月)、北山ハロウィン(10月) 参加者総数 276,809人
		(1)大琳派祭アート部門の核となる「植物園 de RIMPA」アートプロジェクトを展開(7～10月) ・アーティストによる現代アートの饗宴 ヤノベケンジによる巨大彫刻展覧と増田セバスチャンとのコラボレーション(7～10月) 高橋匡太による3彫刻・クスノキ並木等ライトアップ、こどもワークショップ(9～10月) 高木正勝によるコンピュータ音楽コンサート(10月) ・お茶といけばなの祭典(10月) ＜祭典参加者数 13,000人(26実績 10,500人)＞ ・京都国際映画祭とのタイアッププロモーション(10月)、北山ハロウィン(10月) ＜参加者総数 20万人(27新規)＞		◎	
		(2)京都日本画家協会・京都工芸美術作家協会会員207名による初の合同展を、琳派をテーマに開催(4～5月) ＜日本画・工芸展入場者数 15,000人(27新規)＞		◎	・琳派400年記念「現代作家200人による日本画・工芸展 京に生きる琳派の美」展(4/25～5/17 京都文化博物館)を開催。 出品作家207人、入場者18,491人(達成率123%)
		(3)京都国立博物館、京都国立近代美術館等での琳派展開催に合わせ、堂本印象美術館においても琳派展を開催し、京都の博物館・美術館あげて琳派400年を盛り上げ(10～11月) ＜堂本印象美術館琳派展入場者数 10,000人(27新規)＞		△	・堂本印象美術館で琳派400年記念「京都画壇にみる琳派のエッセンス—ユーモアとウィット—」展(10/7～11/29)開催 ・入館者数8,186人(達成率82%) ※11月中・下旬の天候不順により入場者数が減少した。
		(4)琳派をテーマとする古典の日フォーラム(11/1)、琳派400年記念国際フォーラム(11/2・3)を開催		◎	・琳派400年記念 秋の大交流祝典を開催 ①古典の日フォーラム2015(11/1 京都国際会館) 参加者数1,750人 ②国際シンポジウム(11/2 京都国際会館) 参加者数700人 ③国際シンポジウム「琳派 この一作」(11/3 京都国立博物館) 参加者数200人
		(5)京都で活動する写真作家や公募入選作品による「京都現代写真作家展」を、琳派をテーマに開催(11～12月) ＜現代写真作家展入場者数 3,000人(27新規)＞		◎	・琳派400年記念 第15回京都現代写真作家展 京都写真ビエンナーレ2015(12/9～12/13 京都文化博物館)を開催 応募数:257人612作品 展示作品204(公募入選162、賛助出品10、高校生作品32) 入場者数3,318人(達成率111%)
		(6)新鋭展選考委員会で選抜された若手作家による展覧会を、琳派をテーマに開催(1～2月) ＜新鋭選抜展入場者数 30,000人(27新規)＞		○ △	・琳派400年記念 新鋭選抜展-琳派FOREVER-(1/30～2/14 京都文化博物館)を開催 美術館学芸員、美術系大学、画廊等からの推薦153人 選考委員会で47人の出品作家を決定 入場者数 24,983人(達成率83%) ※特別展示会場(別館ホール)が耐震補強工事のため入館者数が減少した。

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	(7)「京都文化ベンチャーコンペティション」を商工労働観光部、京都商工会議所、文化関係団体等と連携して開催し、起業化に向けた取組を積極的に支援 ・過去受賞者、受賞企業事例の成果を発表するセミナーを開催するなど、試行が成果へと結びつく取組を実施 ・京都文化ベンチャーコンペティション応募団体等の起業化を手厚く支援 <応募者への支援:1次及び2次審査通過者への起業セミナー、個別相談会等の開催回数 10回> <受賞者への支援:専門家派遣回数:20回(26実績15回)> <前年度RIMPA400年記念賞受賞者と過去受賞者の琳派関連商品の企画開発による商品展示会の開催 1回(27新規)> <専門家派遣等の府事業を利用した起業支援数 30人(27新規)、事業化・販路開拓支援件数 5件(27新規)>	◎	・募集期間:6/8～9/18 ・応募総数:476件 ・応募者への支援(企業セミナー、個別相談会等) 17回 ・昨年度受賞者4名への支援(専門家派遣、広報支援等) 31回 ・商品展示会の開催 1回(参加10社) ・府事業利用:10件
②	2020京都文化フェア(仮称)の開催に向けて、オール京都体制の推進委員会で基本構想を策定し、取組を推進します。 ・構想策定段階から広く事業アイデアを募集 ・構想の実現に向けたオール京都の実行委員会を立ち上げ ・国や関西広域連合「はなやか関西・文化戦略会議」とも連携し、2020年に向けた気運を醸成	○	・イベントアイデア募集(募集期間9/15～12/22) 公開ワークショップ開催(3回/京都市・宇治市・綾部市) ・推進委員会を開催し、基本構想策定 ・関西広域連合の「はなやか関西・文化戦略会議」の事務局機能を果たすことにより、関西での取り組みと連携調整
③	スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催準備をオール京都で進めます。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキックオフ事業として2016年10月に、京都と東京で開催予定の国際フォーラムの成功に向けてオール京都で準備を推進	◎	・文部科学省スポーツ・文化・ワールド・フォーラム準備室へ職員派遣1名 ・文部科学省に事業内容を提案し、準備に取り組む
④	「国立デザイン工芸美術館(仮称)」の誘致を進めます。 ・京都におけるデザイン工芸美術館の構想策定と、国に対する誘致活動の実施	◎	・文部科学省、文化庁へ政策提案実施(6/12部長、6/17 知事)
⑤	アーティスト・イン・レジデンスの手法も取り込んだ新たな芸術活動等の創造・発展拠点(芸術村)づくりを進めます。 ・農山村地域での滞在型の芸術活動のニーズ、シーズ等の可能性調査、事業アイデア(地域の芸術家の作品展示・発信の場づくり、芸術系大学との連携等)の検討	◎	・地域で活躍する文化芸術関係者から地方創生に係る意見聴取を実施 ・先進事例の調査・資料等収集を行い事業案を検討
⑥	京都で初めて行われる大規模な国際現代芸術祭の開催を通じ、多くの人々が現代芸術に親しみ、海外から訪れる人々との交流を進めます。<国際現代芸術祭(3/7～5/10)の入場者数 25万人(26実績 6.9万人(27年3月末時点))>	◎	・「PARASOPHIA:京都国際現代芸術祭2015」(3/7～5/10 京都市美術館、京都文化博物館ほか)を開催。 ・参加作家 40組45人、21ヶ国 ・入場者数 264,218人(達成率106%)
⑦	京都府文化賞受賞者等で構成する、「京都文化芸術院(仮称)」を立ち上げ、京都から文化の未来を創造します。 ・「京都文化芸術院(仮称)」の設立 ・交流会、記念講演・事業の開催 ・次世代育成、交流からのコラボ事業展開など、府内の新たな文化芸術活動の創造に向けた仕組みづくり	△	・平成28年2月9日の第34回京都府文化賞授賞式後に「京都文化芸術会議(愛称「みやこ文化会議」)が発足。 ※ 具体的な事業については次年度以降につなげていく予定

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
2	【北山文化環境ゾーン】総合資料館・植物園や府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を内外に発信します。				
	計画区分	中期計画	京都力の発揮	文化創造	
達成手段 (数値目標)		府立大学や総合資料館の有するポテンシャルを高め、国際京都学センター機能を含め、総合的にその機能が発揮できるよう、新総合資料館(仮称)を竣工させるとともに、統合情報システムの整備を進めます。			＜ハード事業＞ ・竣工予定 H28年7月。床仕上工事中(進捗率 主体97.5%、電気75.66%、機械87.3%、昇降機84.0%)
		＜ハード事業＞ ・新総合資料館(仮称)の竣工(平成28年秋先行オープン、平成29年春グランドオープン予定) ＜ソフト事業＞ ・「国際京都学センター」のコンセプトを明らかにし、開設準備を推進 ・「国際京都学センター」開設の気運を盛り上げるため、ユネスコ世界記憶遺産新登録の重要性を考える国際シンポジウムを開催(初回9/19から3回(27新規)) ・京都府文化賞受賞者等により京都学の真髄を探る「京都学100人連続講座」を開始 ・東寺百合文書のユネスコ世界記憶遺産登録を目指すとともに、同じく候補である舞鶴引き揚げ資料との合同展覧会を開催(7～9月) ・総合資料館の貴重な資料群及び府大・医大図書館や府立図書館のデータ等を横断的に検索できる統合情報システムを構築(7月末頃) ・新総合資料館において、府内市町村が地域の歴史・文化研究を効果的に発信・発表できるよう要領を作成し、市町村が行う展示資料準備や発表企画案作成を支援		○	＜ソフト事業＞ ・開設準備の一環としてネットワーク形成(海外日本研究機関(4機関が内諾)、大学等と共同研究会(8機関)を立ち上げ、地域文化研究を推進 ・9/19第1回国際シンポジウム開催(京都劇場) 10/12第2回国際シンポジウム開催(稲盛記念会館) 11/21第3回国際シンポジウム開催(龍谷大学響都ホール) ・京都学講座を企画(実施は 28～) ・東寺百合文書展(7～9月、文博)の中で舞鶴引き揚げ資料に関するパネルを展示、国際シンポジウム(3回実施)会場でも合同でパネル等の展示を実施 ・11月 新データベースシステム「京の記憶アーカイブ」を公開。新たに資料目録(約36万件)・デジタル画像(約15万点)を公開 ・展示・発信要領案を作成
	①	約1万2千種の植物を育成栽培する「府立植物園」の魅力を高め、府民のいこいの場、教養の場としてその充実を図るとともに、「府立陶板名画の庭」とも併せて、北山文化環境ゾーンにおけるふれあい・交流空間づくりを進めます。		○	・絶滅危惧種栽培温室を開設(7月) ・ボタニカルオープンウィンドウ設置(3月) ・＜正門＞構想検討中 ・＜北泉門＞ 設計業務完了。工事入札準備 ・「植物園 de RIMPA PANTHEON～神々の饗宴～」を実施(7～10月) ・各種イベント実施(京都さくらよさこい(4月)、ディズニー・ツアーイベント(4月)、花と緑の園芸フェスティバル(5月)、植物園マルシェ(8月)、府民ガーデニングコンテスト(10月)、京都マラソン植物園周遊(2月)等) ・連携ワークショップ 7回開催。京都市青少年科学センターを加え、4園館連携に拡大(3月) 【植物園入園者数】 882,524人(98.1%) 【陶板名画の庭入園者数】 62,155人(124.3%)
	②	・高度な栽培技術を展覧できる日本初の「絶滅危惧種栽培温室」を開設(7月) ・園内の魅力を外からも垣間見ることのできる第2「ボタニカルオープンウィンドウ」を北山通り沿いに開設(1月) ・日本一の植物園にふさわしい自然と調和し緑を活かす植物殿堂館機能を含めた「正門」や新たに北山の回遊性を高める「北泉門(仮称)」等、園全体の整備構想を策定し、整備を進める。 ・「植物園 de RIMPA」を展開(7～10月)【再掲】 ・関係団体等との連携や民間のアイデア・手法を活かした多彩なイベントの開催 …京都さくらよさこい(4月)、ディズニー・ツアーイベント(4月)、花と緑の園芸フェスティバル(5月)、植物園マルシェ(8月)、府民ガーデニングコンテスト(10月)、京都マラソン植物園周遊(2月) 等 ・3園館(植物園、動物園、水族館)連携による次世代に向けた事業の展開 ＜植物園入園者数 90万人(26実績 88.7万人)＞ ＜陶板名画の庭入園者数 5万人(26実績 4.6万人)＞		○	
	③	「北山文化環境ゾーン交流連携会議(北山ぱーとなーず)」による、一体的な情報発信と事業連携による魅力あふれる地域ブランドづくりを進めます。		◎	・フェイスブックを立ち上げ情報発信(4月)、北山マップの作成・配布(4月)、 ・イベントスタンプラリー開催(9～10月)、京都マラソン芸舞妓応援(2月)、 - 北山トリビュート映像作品(3作品)制作(3月) ・北山エリアの魅力創造策の検討(企画会議開催)(3回)
	④	「北山未来構想委員会(仮称)」を設置し、現総合資料館跡地の利活用等に向けた整備検討に着手します。		◎	・「北山文化環境ゾーン未来構想委員会」を設置し、検討開始(1月)

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
3	文化を未来に伝える次世代を育み、文化の継承を図ります。				
計画区分	中期計画	京都力の発揮	文化創造		
達成手段 (数値目標)	①	次世代の文化活動の夢や希望、目標と共に、新たな出会いと交流の場となる「全国高校生伝統文化フェスティバル」及び「全国高校生茶道フェスティバル」を開催します。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本の伝統文化に若い世代が取り組む姿を世界に向けて発信するため、プログラムの多言語化や、留学生等の観覧招待を行います。 ・全国への知名度アップが図れるよう、マスメディアへの働きかけ、WEB発信等の取組を進めます。 <観覧者・参加生徒等数 約3,300人(うち京都府以外からの出場生徒等 520人) (26実績 約3,200人(507人))>		◎	・「第4回全国高校生伝統文化フェスティバル」及び「第2回全国高校生茶道フェスティバル」の開催 観覧者・参加生徒等数:約3,200人 (うち京都府以外からの出場生徒等587人) マスメディアへの働きかけ:30分テレビ番組の全国放送1件 <全国高校生伝統文化フェスティバル> 開催日:12月20日(日) / 会場:京都コンサートホール <全国高校生茶道フェスティバル> 開催日:12月19日(土)・20日(日) 会場:19日京都府公館他、20日京都コンサートホール他
	②	「古典の日」の精神を京都から普及するため、古典に親しみ、次世代へとつないでいくための取組を推進します。 ・古典の日推進委員会等と協働し、琳派をテーマとした古典の日(京都)や全国朗読コンテスト等の実施 ・古典の日推進委員会や関西広域連合と連携し、「古典の日」の普及啓発に努めます。		○ ◎	・古典の日朗読コンテスト 琳派の愛した古典文学を課題作品とした(源氏物語、伊勢物語、古今和歌集) 応募数 558件 受賞8件 古典の日フォーラム2015で受賞者が朗読
	③	有識者等による協議会(文化の知恵袋)を設け、教育委員会との連携のもと、優れた人材を学校や地域に派遣し、児童、生徒が優れた文化・芸術を体験するとともに、地域の文化創造活動に参画することができる機会を拡充します。 <次世代が学校又は文化会館等で体験する文化活動事業数 75件(26実績 71件)>		◎	・「文化の知恵袋」委員会の委員意見に基づき学校へのアーティスト派遣58件、地域の会館等での体験事業8箇所を実施 ・指導者向け講座(丹波漆・狂言・能・間香・ステンドグラス・映像制作・吹奏楽)7部門を実施 ・就学前幼児と保護者向け講座を3コース実施 ・中丹文化会館琳派講座 2件(計76件の実施)
	④	京都文化の魅力を発信し、次世代への継承を図るため、「ほんまもん」の文化芸術に触れる機会を創出します。 ・古典芸能、舞台芸術、音楽などの分野において、若手芸術家が参加し、青少年が優れた文化・芸術に触れる機会をつくります。 <文化施設等における古典芸能、舞台芸術等の実施数 55件(26実績 52件)>		○	・古典芸能普及促進事業補助 34件 (能、狂言、歌舞伎、邦舞、邦楽、詩吟) ・舞台芸術・次世代推進事業 委託10事業(府民ホールアルティ、文化芸術会館) 補助10事業(広域振興局管内) ・計54事業実施(達成率98%)

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
4 「ほんまもん」の文化芸術を深めるとともに、文化の裾野を拡大する取組を推進します。					
計画区分	中期計画	京都力の発揮	文化創造		
達成手段 (数値目標)	①	かけがえのない府民の財産である文化財を、しっかりと守り未来につなぐ取り組みを進めます。 ・府内の未指定文化財を中心に、教育委員会等とも連携し、その修理等の事業を支援 <120件(26実績 106件)> ・仏教会、仏教連合会、神社庁等と連携し、賛同・支援の輪を広げるとともに、企業へも「文化財を守り伝える京都府基金」の寄附を積極的に呼びかけ ・取組内容がよくわかるようホームページを刷新、支援を受けた社寺等のメッセージや同意を得た賛助者・団体・企業名等を積極的に掲出 <寄附目標 5,000万円、協力団体等 180件(26実績 2,758万円、182件)>		△	・修理等の事業を支援 121件(進捗率100%) ・基金への寄附 10,000万円(進捗率20%) ・協力団体182団体 (進捗率101%) ※ 企業等への積極的な寄附の呼びかけを行い、寄附件数は、過去最高となったが、個人からの寄附が中心で、企業からの寄附額が伸びなかったもの。
	②	京都日本画協会・京都工芸美術作家協会会員207名による初の合同展を、琳派をテーマに開催します。【再掲】 <日本画・工芸展入場者数 15,000人(27新規)>		◎	・琳派400年記念「現代作家200人による日本画・工芸展 京に生きる琳派の美」展(4/25～5/17 京都文化博物館)を開催。 出品作家207人、入場者18,491人(達成率123%)
	③	京都を中心に活動する写真作家の作品や公募入選作品による「第15回京都現代写真作家展」を、琳派をテーマに開催します。【再掲】 <現代写真作家展入場者数 3,000人(27新規)>		◎	・琳派400年記念 第15回京都現代写真作家展 京都写真ビエンナーレ2015(12/9～12/13 京都文化博物館)を開催 応募数:257人612作品 展示作品204(公募入選162、賛助出品10、高校生作品32) 入場者数3,318人(達成率111%)
	④	現代京都画壇を代表する作家による日本画「こころの京都百選」の府内巡回展を開催して、広く府民に鑑賞機会を提供するとともに、広報活動を強化し、市町村と連携して鑑賞者を増やしていきます。 <「こころの京都百選」府内巡回展 2箇所 3,000人>		◎	・八幡市立松花堂庭園・美術館(Ⅱ、Ⅲ期 3/31～5/6) 展示各42点、入場者 1,745人 ・与謝野町立江山文庫(8/26～9/24) 展示13点、入場者 488人 ・長岡京市中央生涯学習センター(11/3～11/8) 展示14点、入場者 1,015人 3箇所 3,248人(達成率108%)
	⑤	府立の文化施設を運営・活用し、優れた文化芸術の創造活動を展開するとともに、文化芸術情報の発信、府民の文化芸術の鑑賞の機会や府民の文化活動の場を提供します。 <京都文化博物館の総入館者数 97万人(26実績 96.5万人)> <京都府立文化芸術会館の総入場者数 18万人(26実績 17.5万人)> <京都府立府民ホールの総入場者数 7万人(26実績 6.7万人)> <京都府立堂本印象美術館の総入場者数 3万人(26実績 3万人)>		○	・文博入館者数(3月末) 953,239人(進捗率98%) ・文芸会館入場者数(〃) 175,513人(〃 98%) ・府民ホール入場者数(〃) 67,882人(〃 97%) ・堂本入館者数(〃) 35,972人(〃 120%)

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
5	府内各地の個性ある地域の文化を振興するとともに、文化力で活気あふれる京都を創ります。				
	計画区分	中期計画	京都力の発揮	文化創造	
達成手段 (数値目標)	①	2020京都文化フェア(仮称)に向けて、市町村による創造性の高い文化芸術活動や、地域の文化・自然環境等を活用した地域住民によるその地域ならではの文化芸術活動を支援します。 (2020年に向け、国内外への文化発信や琳派事業等を重点的に支援) ＜市町村や団体が取り組む文化活動への支援数 80件(㉔実績 81件)＞		◎	・2020年に向けた地域文化発信19、府施策と連携7、広域的文化祭2、伝統芸能の継承3、文化力チャレンジ56、計87事業を実施 ・文化力チャレンジ交流会開催(7/15)、文化施設職員交流会開催(7/22)
	②	障害者の文化芸術活動を支援します。 ・きょうと障害者文化芸術機構の創設に向けた、運営に係わる人材の確保などの協力・支援を行います。 ・府立堂本印象美術館について、障害者がより観賞しやすいよう、車いすで入りやすいアプローチへの改修設計を行います。		○	・京都日本画家協会と京都工芸美術作家協会が「きょうと障害者文化芸術推進機構」の理事に就任 ・堂本印象美術館リノベーションに係る外構工事基本・実施設計済み。内外装設計工事の基本・実施設計中
	③	市町村による「文化の仕掛人」(アートコーディネーター)の設置を積極的に支援し、地域文化資源を活かした交流文化イベント等による地域資源を活用した文化芸術活動を通じて、地域の文化活動を活性化させます。(舞鶴市・京丹後市) ＜2箇所(㉔実績 2箇所)＞		◎	京丹後市及び舞鶴市の2箇所「文化の仕掛人」を設置し、丹後は地域の文化資源を活かし、地元住民が参加するイベントを、舞鶴では地元の食とアートをテーマに幼児を対象にしたワークショップや中高生を対象としたワークショップを実施。それぞれ、地域の文化活動の活性化を図っている。
	④	現代京都画壇を代表する作家による日本画「こころの京都百選」の府内巡回展を開催して、広く府民に鑑賞機会を提供するとともに、広報活動を強化し、市町村と連携して鑑賞者を増やしていきます。 【再掲】 ＜「こころの京都百選」府内巡回展 2箇所 3,000人＞		○ ◎	・八幡市立松花堂庭園・美術館(Ⅱ、Ⅲ期 3/31～5/6) 展示各42点、入場者 1,745人 ・与謝野町立江山文庫(8/26～9/24) 展示13点、入場者 488人 ・長岡京市中央生涯学習センター(11/3～11/8) 展示14点、入場者 1,015人 3箇所 3,248人(達成率108%)
	⑤	京都文化博物館等を会場としたアートフリーマーケットの開催を通じて、若手芸術家や職人等の育成・支援を図り、今後の事業展開につながるきっかけづくりを行います。 ＜春・秋開催 計300ブース、70,000人(㉔実績 69,500人)＞		◎	・2015秋 開催済み 開催日:9/19～9/21、会場:京都文化博物館他 出展数:159ブース、入場者数:約45,500人 ・2016春 開催日:3/19～3/21、会場:京都文化博物館 出展数:111ブース、入場者数:約28,000人
	⑥	「京都文化ベンチャーコンペティション」を商工労働観光部、京都商工会議所、文化関係団体等と連携して開催し、起業化に向けた取組を積極的に支援します。【再掲】 ・過去受賞者、受賞企業事例の成果を発表するセミナーを開催するなど、試行が成果へと結びつく取組を実施 ・京都文化ベンチャーコンペティション応募団体等の起業化を手厚く支援 ＜応募者への支援:1次及び2次審査通過者への起業セミナー、個別相談会等の開催回数 10回＞ ＜受賞者への支援:専門家派遣回数:20回(㉔実績 15回)＞ ＜前年度RIMPA400年記念賞受賞者と過去受賞者の琳派関連商品の企画開発による商品展示会の開催 1回(㉔新規)＞ ＜専門家派遣等の府事業を利用した起業支援数 30人(㉔新規)、事業化・販路開拓支援件数 5件(㉔新規)＞		◎	・募集期間:6/8～9/18 ・応募総数:476件 ・応募者への支援(企業セミナー、個別相談会等) 17回 ・昨年度受賞者4名への支援(専門家派遣、広報支援等) 31回 ・商品展示会の開催 1回(参加10社) ・府事業利用:10件

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
6	京都の有する優れた文化価値を内外に力強く発信するため、地元市町村とも連携し、天橋立の世界遺産登録に向けた取組を推進します。			◎	
	計画区分	中期計画	京都力の発揮		
達成手段 (数値目標)	①	世界文化遺産暫定一覧表への掲載を目指して文化庁へはたらきかけるとともに、著名人へのインタビュー記事を掲載した広報誌の作成や、地元市町とも連携したシンポジウムの開催をします。		◎	・検討委員会を3回開催 ・各分野の専門家へのインタビュー及び地元有識者の座談会を実施 ・世界遺産暫定一覧表への追加を国に要望(27年6月) ・地元シンポジウムの開催 開催日:3月19日
7	府の生涯学習拠点として、リニューアルした府立ゼミナールハウス(あうる京北)の魅力をPRし利用促進を進めるとともに、ICT(情報通信技術)を活用した生涯学習環境の充実を図ります。			△	
	計画区分	中期計画	府民安心の再構築		
達成手段 (数値目標)	①	生涯学習拠点の府立ゼミナールハウスがより多くの府民に親しんでいただけるよう、事業・機能の充実を図ります。(地域団体と連携した地域の魅力を発信する事業の実施) ＜府立ゼミナールハウスの総利用者数:4.5万人(26実績 3.8万人)＞		△	・ゼミナールハウス総利用者 39,763人(進捗率88%) ※パンフ、チラシ、ホームページの更新、各種大会や大学祭の広告掲載等を通じたPR活動を積極的に実施したが目標に及ばなかった。 (26年度実績比103.5%)
	②	生涯学習推進ネットワークの協力を得ながら、インターネット放送局の生涯学習講座の内容を充実し、学習意欲を高め、受講者数の増加を図ります。 ・琳派講座等の配信講座内容の刷新や、小テスト・認定証機能の新規追加 ＜新講座数:30講座(27新規) 受講者:8,300件(26実績 3,913件)＞		△	・新講座30講座を登録(進捗率100%) 受講者数 5,058件(進捗率60%) ※インターネット放送局生涯学習講座については、新規30講座を登録して刷新をはかり、小テスト・認定証機能の新規追加をはかったが、一方で、画質が低いものや、内容が古いもの等を整理し、330講座を110講座(新規30講座を含む)にリニューアルした影響で受講者が伸び悩んだ。 (26年度実績比129.3%)
	③	新総合資料館(仮称)をはじめ北山文化環境ゾーンが新たな生涯学習推進の役割を担えるよう、京都学の蓄積を幅広い府民に還元できる取組を推進します。 ・国際京都学シンポジウムの開催		◎	・9/19第1回国際京都学シンポジウム開催(京都劇場) ・10/12第2回国際京都学シンポジウム開催(稲盛記念会館) ・11/21第3回国際京都学シンポジウム開催(龍谷大学響都ホール)

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
8	「夢・未来」スポーツ拠点整備を推進するとともに、府民がスポーツを「する」「観る」「支える」機会を提供し、「スポーツ王国・京都」の実現を図ります。				
	計画区分	中期計画	京都力の発揮	文化創造	
達成手段 (数値目標)	①	アユモドキ等の自然と共生するスタジアムを実現する調査・実証実験結果反映型の新たな公共事業方式により、京都スタジアム(仮称)の整備を進めます。 ・亀岡市と連携しながら環境保全や景観等に配慮した検討を進め、アユモドキ等の自然と共生するスタジアムを実現する新たな公共事業方式の導入による実施設計等の整備着手 ・施設の運営手法と効果的な活用手法等の運営計画の策定			△ 今年度、水田環境実証実験を実施し、環境保全専門家会議において、色々な想定の下に、データの分析・考察を進めながら、多面的な検討・評価作業を慎重に行っており、当初想定よりも時間を要している状況。
	②	「京都トレーニングセンター構想」に基づき、丹波自然運動公園において京都府産木材を使用した京都トレーニングセンター(仮称)及び宿泊棟(合築)のH28年春休みオープンを目指し工事を進め、ジュニアアスリート等のトレーニング拠点にするとともに、京丹波町と連携し地域振興にも役割を果たす施設として整備します。また、陸上競技場の第2種公認化(広域競技会開催可能)を図る施設整備に着手します。		○	・京都府産木材を使用した京都トレーニングセンター(仮称)及び宿泊棟(合築)については、掘削斜面からの湧水に伴う排水対策の実施等により想定以上の日数を要したことから、H28年夏休み前オープンを目指し工事を進めている。 ・陸上競技場第2種公認化を図る施設整備については、3月工事着手済。
	③	「京都スポーツヒル構想」に基づき、山城総合運動公園において、11月中旬の完成を目指しテニスコート屋根(4面)、クラブハウスを整備します。		◎	・テニスコート屋根(4面)、クラブハウス共、工事完成(11/13)
	④	市町村が行う広域的・基幹的及び準広域的・準基幹的なスポーツ施設の整備を支援することにより、府域を見渡したスポーツ施設整備を進めます。		◎	・H27年度に京都市西京極陸上競技場兼球技場の大型映像装置改修等及び福知山市三段池公園テニスコートの人工芝化に係る経費について支援を実施
	⑤	島津アリーナ京都において、国際的・全国的なスポーツイベント<4件(◎実績 3件)>を開催するとともに、中・長期的な視点を持って誘致活動を展開し、一流のプレーを通じて青少年に夢や希望を与える機会を提供します。		◎	・27年度の実績(計5件) 6月 ワールドリーグ2015 インターコンチネンタルラウンド(男子バレーボール) 10月 大相撲京都場所 2月 Vプレミアリーグ6(女子バレーボール) 2月 島津全日本室内テニス選手権大会 3月 ワールドプレミアムボクシング
	⑥	市町村や関係団体との調整や協力体制の構築を進め、「京都府国際大会等誘致計画(案)」を策定し2020年東京オリンピック・パラリンピック等の試合・練習会場や合宿地を誘致するとともに、2021年関西ワールドマスターズゲームズの開催地誘致に向けて積極的に取り組むなど、オール京都体制で国際大会等の実現に向けた誘致活動に取り組めます。		○	・7月に第3回同推進本部調整会議開催 (市町村、競技団体、経済界のオール京都体制) ・11月にホストタウン登録に向けて市町村・競技団体を対象として説明会を開催するなど登録支援
	⑦	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、障害者の方々のスポーツへの参加機会の拡大や競技力向上のための環境整備を進めます。 ・障害者が安全・快適にスポーツが出来る施設の整備や運用の改善等による、障害者のスポーツへの参加機会の拡大、競技力向上等に向けて、アクションプランを策定		◎	・障害者スポーツ推進協議会(アクションプラン検討会)を設置し、「障害者スポーツ振興アクションプラン」を策定
	⑧	オリンピック・パラリンピックや世界選手権等で活躍した京都ゆかりのトップアスリートを府内の学校や府立スポーツ施設等に派遣する「京のスポーツ夢バンク」により、子どもたちがスポーツを通じた「夢」や「希望」を持てるよう、新たに障害者スポーツとの交流を行うなど、ふれあい体験事業を充実します。 <バンク登録 115人、25事業(◎実績 110人、20事業)>		○	・バンク登録 115人 ・事業数 24事業

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
9	私立高校生が安心して就学できるよう就学支援を推進するとともに、私立学校の特色・魅力づくりや経営改革への取組を強力に支援します。				
計画区分	中期計画	府民安心の再構築	学びの安心		
達成手段 (数値目標)	①	経済的事情で学業を断念することがないように京都府こどもの貧困対策推進計画を踏まえ、高校修学支援事業を推進します。 ・非課税世帯の修学支援を拡充するため、「給付型奨学金事業」を拡充 ・各学校と連携して府あんしん修学支援事業を推進するとともに、少子化・貧困対策等の総合的な観点から国への政策提言を実施 ・京都府高等学校修学金(貸付金)に係る学校説明用マニュアル・資料を作成し、各学校と連携して在学時における生徒指導・制度周知を徹底し滞納の未然防止を推進 ＜私立高校の経済的理由による中退者を無くします。＞		◎	・「給付型奨学金事業」の単価アップを実施 (非課税世帯全日制等38,000円→39,800円 通信制 28,900円→38,100円) ・あんしん修学支援事業については、各校からの申請を受け、概算交付を実施するとともに、国へ制度拡充や新たな支援制度の創設を要望 ・各学校に対して進級時確認シートの実施を校長会での呼びかけ、滞納額が多い通信制学校に対する進級時確認シート実施の呼びかけを実施
	②	体罰、いじめ、中退、不登校事案の根絶・減少、自立に向けた取組を実施します。 ・いじめの未然防止、いじめの早期発見・解決のため、各学校におけるいじめ防止の取組を支援 ・京都府いじめ防止基本方針に基づき、「京都府いじめ調査委員会」、「京都府いじめ問題対策連絡会議」において情報共有・意見交換、共同での啓発等を行い、関係機関が連携してオール京都体制でのいじめ防止対策を推進 ・私立学校に対するネット監視事業を新たに行い、ネットいじめ等への学校対応の支援を実施 ・京都府私学修学支援相談センターが実施する事業を支援し、保護者・生徒への相談体制を充実 ・京都ジョブパークと連携して、私立高校生の就業支援や就労後の定着支援を実施		○ ◎	・いじめ調査委員会開催(12.1) ・京都府いじめ問題対策連絡会議開催(12.17開催) ・いじめに関する講演会の開催(2.21開催) ・ネット監視開始(27.4月～) ・京都府私学修学支援相談センターへの補助を実施 H27.4～28.3月の相談件数 電話・面接631件 (H26.4～27.3月の相談件数 電話・面接337件) ・新規高等学校卒業予定者を対象とした企業説明会を実施 (28年3月17.18日実施)
	③	京都府公私立高等学校協議会において、少子化の影響を見据えたこれからの京都の教育における公私連携のあり方を協議します。		◎	・京都府公私立高等学校協議会幹事会を6月16日開催 ・京都府公私立高等学校協議会幹事会北部部会を開催(7.24及び12.3開催) ・京都府公私立高等学校協議会を開催(28.1.22)
	④	耐震改修を促進します。 ・耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知や耐震化に関する相談を行い、私立学校(小・中・高)の耐震化を促進します。 ＜小・中・高の耐震改修率 90%(26実績 85.5%)＞		○	・耐震補強工事10棟実施(含む非構造部材のみ耐震3棟実施) (対応済数)222棟／249棟(全棟数)→86.3%)

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
10	私立幼稚園において地域の子育て支援と特色ある幼児教育活動、教員の資質・専門性の向上を支援します。				
	計画区分	中期計画	府民安心の再構築	学びの安心	
達成手段 (数値目標)	①	きょうと子育て支援センターにおいて関係課と連携し、総合的な子育て支援施策を推進します。 ・地域の子育て力を強化するため、未入园児一時保育事業(子育て相談事業、地域の子育て力向上事業)を推進 <150園(26実績 133園)> ・保護者のニーズに合わせ、正規の時間外に幼児教育の一環として行う預かり保育を促進 <150園(26実績 143園)>		○	・未入园時一時保育事業実施園130園(26年度実績133園) ・預かり保育実施園143園(26年度実績143園)
	②	幼稚園連盟と連携し、教員の資質・専門性の向上、特色ある幼児教育活動を促進します。 ・キンダーカウンセラー等の専門職員の加盟園への派遣を通じて、幼児教育の質の向上と家庭での子育て支援の充実を図ります。 ・園児大会を開催し、園児の交流を広げ、幼児の健やかな成長と私立幼稚園の振興を図ります。 <府内5地区(26実績 5地区)>		◎	・キンダーカウンセラー派遣園67園(26年度実績68園) ・園児大会府内実施地区5地区(26年度実績5地区)
	③	耐震改修を促進します。 ・耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知や耐震化に関する相談を行い、私立幼稚園の耐震化を促進します。<幼稚園の耐震改修率 75%(26実績 66.1%)>		△	・耐震補強工事12棟実施(含む非構造部材のみ耐震3棟) ((対応済数) 146棟/215棟(全棟数)→65.1%) ※ 各幼稚園に対して、補助事業の周知等を行ったが、資金や工事中の代替施設の確保等の課題があり、実績が伸びなかったもの
	④	保護者の就労に必要な預かり保育の充実や子育てに関する相談・交流の拠点としての機能が一層発揮できるよう、「子ども・子育て支援新制度」を踏まえつつ、市町村、関係団体、関係課と連携して各幼稚園に寄り添った支援を行います。		◎	・幼稚園に対しては、速やかな情報提供に努めるとともに幼稚園向け事務説明会を開催(6月)し支援。 ・この他、府と幼稚園連盟が新制度問題について検討する場である「新制度問題等検討会」を開催(9月,10月,12月,3月)し、新制度の実施状況や今後の見通し、幼児教育に係る諸問題について検討・情報共有。 ・その他市町村からの問い合わせにきめ細かく対応。

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)	
11	京都文化に大きな役割を担う社寺などとの連携を深めるとともに、宗教法人に対して法や規則に沿った管理運営を指導します。			◎		
計画区分		中期計画	京都力の発揮		文化創造	
達成手段 (数値目標)	①	日本のこころの文化を育んできた社寺などと文化財の保全をはじめ、琳派400年記念関連事業などを通じて連携・協力し、2020年に向けて京都文化の魅力を高めます。			◎ ・宗教法人関係者人権問題研修会開催(3回実施) ・琳派ゆかりの寺院の協力のもと琳派400年記念祭イベント実施等 ・ふるさと寄附金者への文化体験	
	②	・宗教法人が不活動状態に至らないために法人毎の対策を検討し、指導・相談を実施します。 ＜13法人(26実績 14法人)＞ ・不活動状態にある宗教法人の整理に取り組みます。			◎ ・15法人に対し、現地調査や必要な手続きについて丁寧に指導 ・任意解散2件、代表役員変更2件、解散命令1件	
12	知事部局と教育委員会が教育等の課題を共有し、その解決に向けて連携して取り組みます。			◎		
計画区分		中期計画	府民安心の再構築		学びの安心	
達成手段 (数値目標)	①	「総合教育会議」を設置して、京都府の教育、学術及び文化等の振興に関する総合的な施策の方針となる大綱を策定するとともに、京都府の教育等に関わる様々な課題について協議し、知事部局と教育委員会が連携して取り組みます。			◎ ・会議を4回、意見交換会を1回開催。 ・教育の現状と課題について意見交換を行うとともに、教育等の振興に関する大綱を策定。 ・知事と教育委員会が教育等に関する基本的認識を共有し、連携を密にして施策を推進することを確認。	

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
13	京都の成長戦略の核となる大学の資産を活かし、ともに成長・発展する京都を実現します。				
(1)	大学・学生の力を活かした地域の活性化に向けた取り組みを進めます。				
	計画区分	中期計画	京都力の発揮	人づくり	
達成手段 (数値目標)	①	「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)採択大学をさらに拡大するとともに、COC事業や「京都ギャップイヤー事業」等を通じ、地域に根ざした大学の活動を拡大します。 ・COC事業採択数 <4件(26実績 3件)> ・COC事業や京都ギャップイヤー事業等への参加を通じて京都について学ぶ学生数 <4,000人(26実績 3,672人)> ・新たに2つの大学と連携・協力に関する包括協定を締結し、協働事業を推進(26実績 新規2大学) ・府内研究者のデータベースである「知」のデータベースの見直しを行い、活用の促進を図ります。		◎	・COC及びCOC+参加大学等 6校に増加 【内訳】 COC事業採択数 3件(京大、京都工芸繊維大・舞鶴高専、京都文教大) COC+事業採択数 1件(京都工芸繊維大、京都府立大、京都学園大、舞鶴高専、京都文教大、京大) ・京都について学ぶ学生数 5,607人 ・包括協定 新規2大学 (情報大学院大学・学校法人同志社) ・知のデータベース見直し中
	②	地域の課題の解決に向けて、「大学・地域連携協議会(仮称)」を設置し、府内の大学と地域との連携を促進します。 ・府内の大学と地域との連携を促進するための「大学・地域連携協議会(仮称)」の設置(府内の大学と地域との連携促進、大学と市町村のマッチング支援、コーディネーターの設置等の検討)		○ △	・京都府域をまるごとキャンパス化するための事業として、平成28年度より「1まち1キャンパス事業」を実施し、大学と地域が連携したプロジェクトを支援することで、「大学・地域連携協議会」の設置に代えて、大学と地域のマッチングを支援し、連携を促進することとなったため。 併せて同事業を促進するためのアイデアソンを3月に開催、28年度も引き続き開催し検討を進めるもの。
	③	「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を活用して、府北部地域をはじめ大学・地域一体型の人材育成・産業活性化に取り組みます。 ・京都府北部地域連携都市圏における、地域と大学の連携による新たな雇用創出や地元企業の人材確保に向けた人材育成拠点の形成		◎	・京都工芸繊維大学を代表校とするCOC+事業が採択 ・28年度北京都分校(工繊大)の開設を予定
	④	大学コンソーシアム京都等を通じた情報発信等により、キャリアアップや社会貢献、学び直し等様々な目的で大学に再入学する社会人の増加を目指します。 ・社会人入学者の増加<1,000人(27新規)>		○	・社会人入学者数 930人
	⑤	学生による京都ならではの取組を推進し、大学のまち京都の魅力をさらに向上させます。 ・京都学生祭典への参加学生数の増加<1,550人(27新規)> ・京都学生祭典の地域での交流活動回数の増加<540回(27新規)> ・京都学生祭典において、芸術系大学による企画に取り組む。		○	・学生祭典の参加学生数 1,544人 ・学生祭典の交流活動回数 327回 ・芸術系大学による企画 広報物の作成、音楽企画等を実施

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
(2)	府立医科大学・附属病院及び府立大学における教育・研究・医療を推進するため、京都府公立大学法人第二期中期目標に基づき、施設整備や機能強化を図ります。				
	中期計画	京都力の発揮	希望に輝く地域づくり	みやこ構想の実現	
達成手段 (数値目標)	①	総合的に物事を判断できる能力と豊かな人間性を有する学生を育成するため、教養教育共同化施設を拠点に平成26年度から全国初の取組として開始した3大学(府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学)による教養教育共同化を更に推進します。 ・植物園をフィールドとした科目や2回生以上を対象とした科目などを新設することにより教育内容を充実 <74科目(26実績 68科目)> ・授業、スポーツ、文化活動等での学生間の交流を進めることにより、北山の地に「交流しながら学ぶ新しい学修空間」を充実			○ ・後期開講科目として植物園をフィールドとする科目を実施するほか、語学の科目を含め2回生以上を対象とする3科目実施(74科目を開講) ・3大学の学生が自主的に研究テーマを設定してゼミナールを実施するなど、3大学の学生が交流を深めた。 ・27年度から学生が希望する科目を出来るだけ受講できるよう各大学別の科目の登録定員を弾力的に運用し、共同化の充実を図った。
	②	近年の医療ニーズ、京都府の政策医療や陽子線等による最先端のがん治療などに対応した府立医科大学附属病院の将来ビジョンを策定するとともに、病棟の再整備、最先端がん治療研究センター(平29完成予定)の活用等、具体的な機能強化に向けて基本設計を策定します。			○ ・患者さんにやさしい病院づくりを目指した「府立医科大学附属病院機能強化ビジョン」を策定 なお、最先端がん治療研究センターについては、27年11月に着工し、平成29年度に完成、平成30年度の治療開始を目指している。
	③	府立医科大学附属北部医療センターが北部地域における中核病院や医学教育・臨床研究の拠点としての役割を果たすため、北部地域の医療提供体制の強化を図ります。 ・「北部医療センター安心医療拠点整備検討委員会(仮称)」を府立医科大学内に設置し、「北京都安心医療拠点」としてふさわしい機能のあり方を検討 ・がん診療拠点を目指し放射線治療施設(リニアック)の整備を行うため、基本設計を実施			○ ・京都府立医科大学附属北部医療センター「北京都安心医療拠点」整備検討会を設置して開催し、提言をとりまとめ(開催日3/8、3/22) ・北部地域のがん対策を担うリニアック(放射線治療機器)及びPET-CT(放射線診断機器)を新たに備えた「がん診療棟(仮称)」の基本設計を完了
	④	府立大学内に外部有識者を含む「府立大学キャンパス整備構想検討委員会(仮称)」を設置し、魅力ある大学づくりに向けて、下鴨・精華両キャンパスの機能分担(学研都市との連携を含む。)、各キャンパスに必要となる施設内容等について検討を進めます。			○ ・府立大学内に「府立大学基本構想委員会」及びその「作業部会」、また、外部有識者による「府立大学基本構想委員会専門家会議」を設置し、特色ある大学づくりのために取り組むべき方向や下鴨・精華両キャンパスの機能分担などについて検討を進めた。 ○基本構想委員会 計4回 (6/11、7/9、7/27、3/25) ○「作業部会」 計5回 (6/19、6/25、7/3、7/15、7/23) ○「専門家会議」 計2回 (1/20、3/30)
	⑤	府立大学における和食文化に関する学部・学科の早期設置に向けた準備を進めるとともに、和食文化に関連する企業や大学との連携・協力を進めます。 ・文理融合の学部横断プログラムの開設及び府民向け講座の開催 ・和食文化に関する学部・学科の設置及び研究機能の整備に向けた準備 ・和食文化に関する学問体系の構築や教育内容・方法の検討を進めるとともに、和食文化に関連する企業との連携促進や大学との「和食文化教育コンソーシアム(仮称)」の設置			○ ・【食文化】【健康・栄養】【人文・社会】【環境】等、和食を構成する分野からなる学部横断プログラム「和食の文化と科学」を実施するとともに、府民向けのリカレント学習講座を実施した。 ・8月に「和食文化の高等教育機関」開設に向けた専門家会議を立ち上げ、学部(学科)の設置計画、カリキュラム等を府大で検討した。 ・学部(学科)立ち上げに向けた取組を加速するため、9月に京都府、府大、有識者、食関連企業、関係団体によるキックオフ共同記者会見を実施した。
	⑥	府立大学における府内市町村との連携協定(平成26年度末で7市町)の締結拡大を進め、市町村等の要請に応じて地域貢献型特別研究(ACTR)の研究費などを活用した研究活動を推進するとともに、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)と連携し、新産業「植物工場ビジネス」への新たな技術支援で企業参入を促進します。			○ ・府内市町村と包括連携協定の締結拡大に向けた市町村担当者等との意見交換会を実施し、新たに京丹後市と連携包括協定を締結した。また、地域貢献型特別研究においても、市町村等からの提案に対応した32件の地域課題解決に向けた研究を実施した。 ・新産業「植物工場ビジネス」については、民間企業(一部上場企業3社)から研究を受託し、異業種からの新規参入への足がかりを作った。

平成27年度 文化スポーツ部 運営目標 達成状況

運営目標	達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
------	------	-----------------------------

目標達成状況(達成区分)	件数	割合
目標達成「◎」(達成手段のすべてが◎)	3	21%
概ね達成「○」(達成手段の◎○が2/3以上)	10	71%
未達成「△」(達成手段の◎○が2/3未満)	1	7%
計(運営目標数)	14	

[達成手段(数値目標)の達成区分]
「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)
「○」…概ね達成(達成率90%~100%未満)
「△」…未達成(達成率90%未満)